

Liquitous Inc.

「デジタル民主主義」の可能性とLiquitousの実験

-デジタルを言い訳に、市民参加を進めよう！-

2021年10月22日版

office@liquitous.com

株式会社Liquitous



0-1 自己紹介

栗本 拓幸 (くりもと・ひろゆき)

株式会社Liquitous 代表取締役CEO

- ・ 1999年9月 東京都生まれ
- ・ 2015年4月 浅野高等学校入学
- ・ 2016年～ 一般社団法人生徒会活動支援協会、NPO法人Rightsなどに参画（～2020年）
- ・ 2018年4月 慶應義塾大学総合政策学部 入学
- ・ 2018年～ ファシリテーター、議員PRコンサルなどの活動
- ・ 2020年2月 合同会社Liquitous 設立、代表社員に就く
- ・ 2021年2月 株式会社Liquitousに改組、代表取締役に就く

ひらくスペース@国立・谷保（私設図書館&コワーキングスペース）
Polyphonic Future 構成員（産学官の「シナリオプランニング」活動）
横浜をつなげる30人 2nd Batch ほか

Twitter & Facebook : /maronkouhou

HP : <http://hiroyuki-kurimoto.jp/>



忘れられないやりとり@エストニア

(2018年)

栗本：

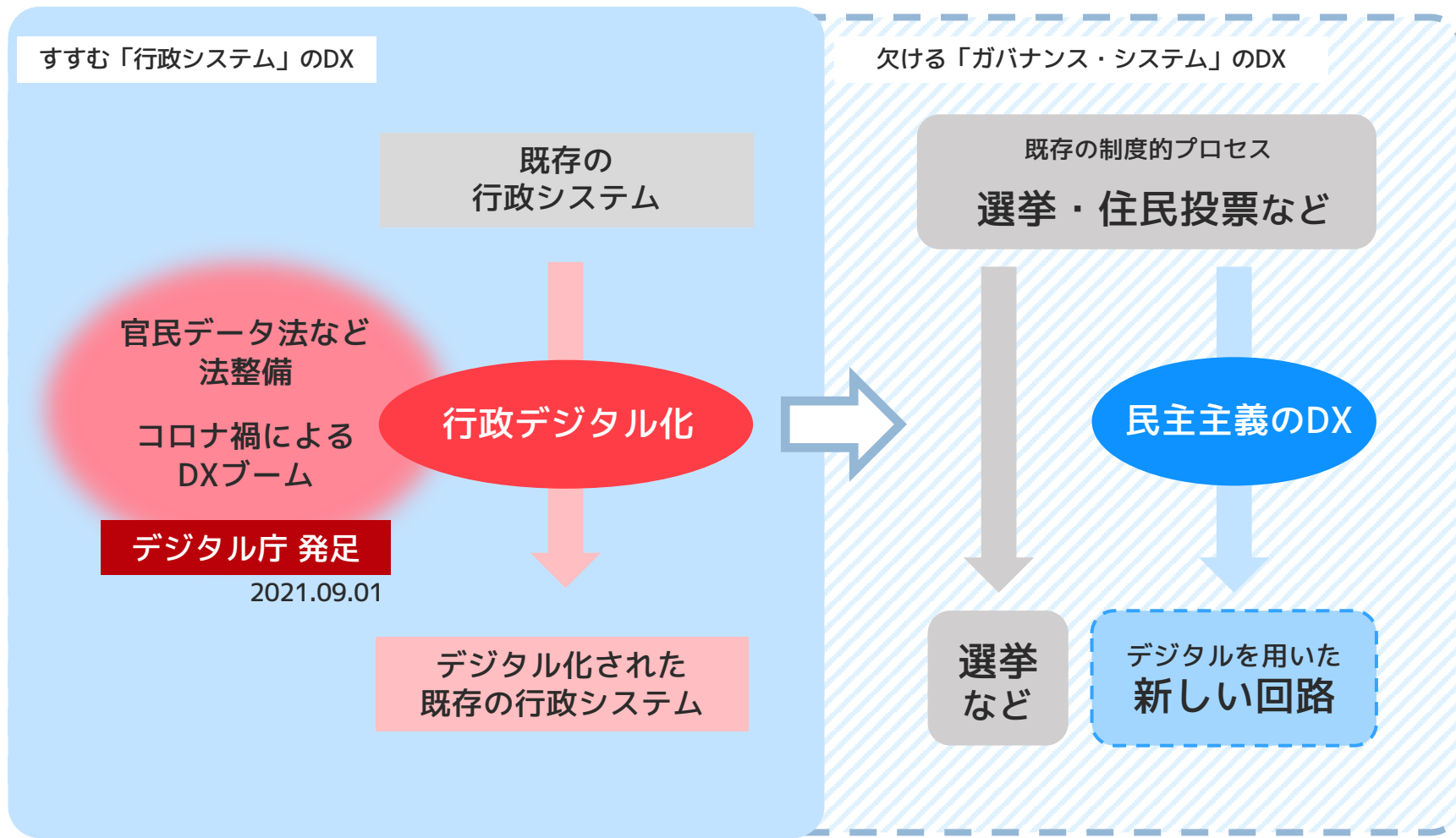
「日本からエストニアの
進んだ電子政府を学びに来ました！」

チュニジアのライター：

「えっ！こういう分野は
世界で日本が1番じゃないのかい！？」



0-3 企画の背景



0-4

東京新聞「大図解」：デジタル民主主義

デジタル民主主義

多様な声を反映し、より良い社会に

デジタル技術が進化し、政治や行政のありかたを変えています。インターネットを通じて私たちのデータが蓄積、専有されて監視社会が現実のものになる懸念がある一方、政治や行政が身近になり、透明性、双方向性を高めることもできます。社会をつく新たな回路ともいえるデジタル民主主義を考えます。

みんなのことをみんなで助け合う —台湾の挑戦



オーディータン

- 「3つのF」
- Fair(公平)** シビックハッカーの助けを借り、情報も一般公開
 - Fair(公平)** マスクを個人監視して販売。高齢者が使いやすい仕組みを採り
 - Fun(面白)** ユーモアをもったウェブニュースを開発



transparency, participation, accountability, and inclusion



日本の先行事例

スマホで行政手続き

茨城県つくし市では2021年7月、市内の総務課業務で、利用申請などの手続きをオンラインで済ませる実践を開始。21年度末の広報のみで開始している。また茨城県などのインターネット投票の実現に向けて、中核的な社会参加推進のネットワークも強化した。



スマホよろず相談所

石川県東条市が2021年7月、市民の課題解決をまくそう相談。専門の支援員が「文字が小さい」「目が悪い」「高齢者の操作」などに関する相談に応じる。



デジタル庁

2021年9月誕生。国のデジタル政策の司令塔になる。先行稼働した案件はコロナウイルスのワクチン接種管理システム(約100万)で、1日100万接種が「ワクチンスタート」(真夏の話題)



「ふわっ」とした民意を明らかに

合意形成のためのオンラインプラットフォームを開発している

「あつち」が実現している仕組みでは、行政職員や有権者である住民に加えて、地域にかけわたりある人も参加する。参加者は匿名で発言し、オンラインで投票し合える。投票結果がリアルタイムで表示される。また、投票結果が公開されると、その結果がどうなるか、その結果がどうなるかを予測できる。これにより、住民が自分の意見が反映されているか、また誰がどの意見を持っているかを把握できる。また、投票結果が公開されると、その結果がどうなるか、その結果がどうなるかを予測できる。これにより、住民が自分の意見が反映されているか、また誰がどの意見を持っているかを把握できる。

新しい政治制度 一緒にしよう!

新しい政治制度を一緒にしよう! 新しい政治制度を一緒にしよう! 新しい政治制度を一緒にしよう!



山田直樹

「あつち」は、市民が自分の意見を発表し、他の市民の意見を確認できる。また、投票結果がリアルタイムで表示される。これにより、住民が自分の意見が反映されているか、また誰がどの意見を持っているかを把握できる。



使い道減ればデジタル専制に

ネット上の情報の蓄積により、ごく一部のネットワークがAI(人工知能)とともに社会を支配することもある。これが「デジタル専制主義」だ。政府などによる「監視社会」といえる。これに気づいたデジタル民主主義は、現実で用いられるべきだ。行政や地方自治体などが、情報が住民に開かれた中で、行政とともに、住民と意見を交わして社会全体のコンセンサスを築いていくべきだ。デジタル民主主義は、現実で用いられるべきだ。行政や地方自治体などが、情報が住民に開かれた中で、行政とともに、住民と意見を交わして社会全体のコンセンサスを築いていくべきだ。

0-5

国内外の代表的なプラットフォーム

国内

コンセプト	展開する法人
 <p>都市や組織のための自由でオープンソースの直接参加型民主主義</p>	(一社) Code for Japan (株) 電通ISID
 <p>政府・自治体に特化した国民と行政を直接つなぐ、意見募集プラットフォーム</p>	(株) 自動処理
 <p>行政の政策づくりのプロセスに誰もが簡単に参加できる場所をつくる。</p>	(株) PoliPoli
 <p>『じっくり話して、しっかり決める』対話・熟議に基づいたオンラインの参加型プロジェクト共創プラットフォーム</p>	(株) Liquitous

国外

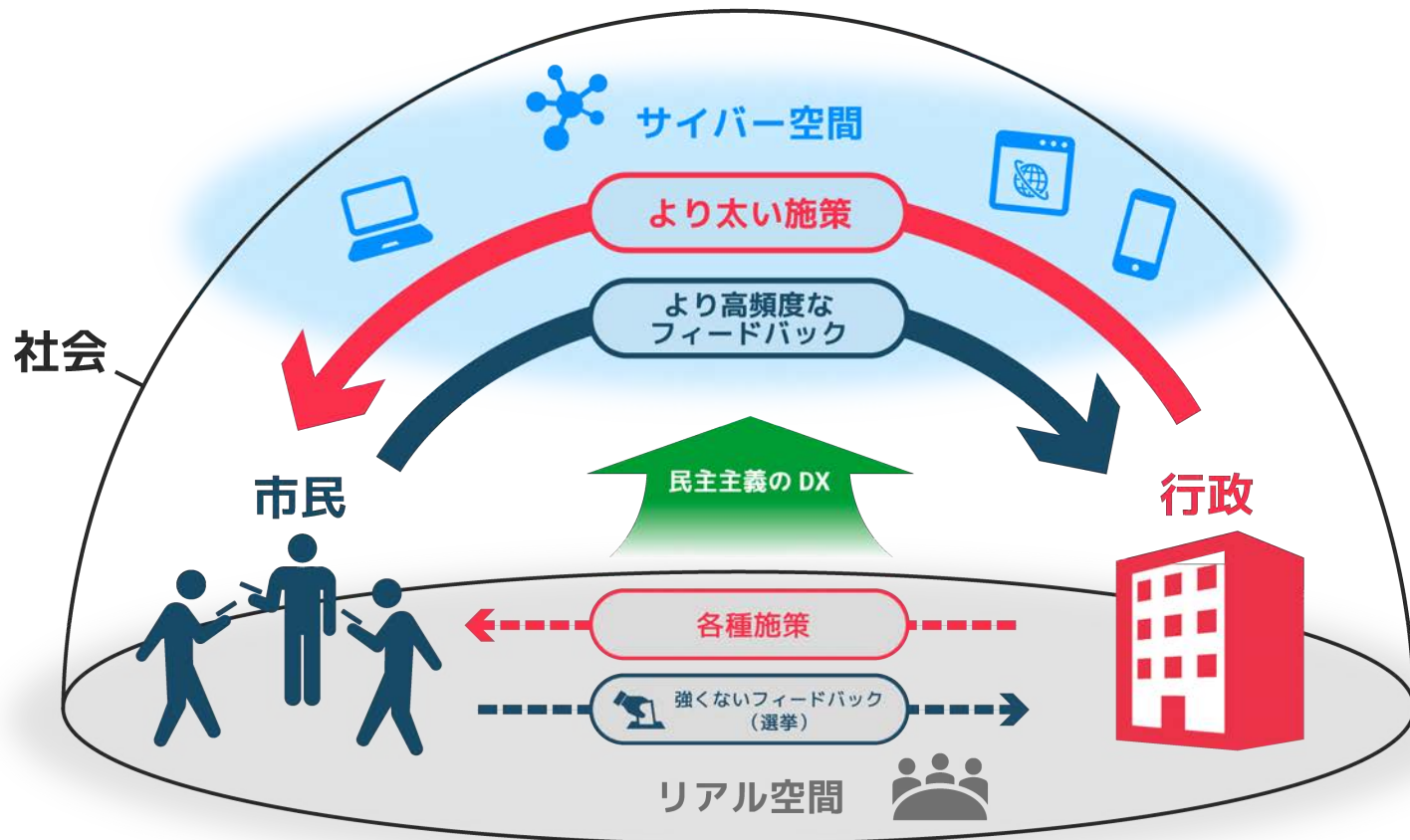
コンセプト	中心	開発者
 <p>“better decision-making meetings online”</p>	スウェーデン 	VoteIT (nonprofit, OSS)
 <p>“Decisions made easy.”</p>	ドイツ 	Interaktive Demokratie (nonprofit)
 <p>“a digital platform for citizen participation”</p>	スペイン 	バルセロナ市 (OSS)
 <p>“Free software for citizen participation.”</p>	スペイン 	マドリッド市議会 (OSS)
 <p>“Digital tools for citizen participation for governments.”</p>	アルゼンチン 	Democracia en Red (NGO)
 <p>“An e-democracy platform for stronger communities”</p>	ベルギー 	citizenlab (Venture)
 <p>“rethinking democracy”</p>	台湾 	G0v (nonprofit, OSS)

- Liquidiousについて



1-0 Ligitousのビジョン

Ligitousは、**民主主義のDX**に取り組み、
『一人ひとりの影響力を発揮できる社会』を実現する



Liquidousは『市民参加』のデジタル化・DXを一気通貫して実施

—市民参加のデジタル化・DXの困りごとの解決を一手に引き受けます—

① 弊社独自開発のあたらしい「市民参加のDX」ツール 参加型共創プラットフォーム“Liqid”の開発・運用

(ソフトウェア開発事業)

弊社開発の、オンラインの参加型共創プラットフォーム『Liqid』は、「プロジェクト」を媒介とする議論過程への直接の参画を特徴とし、既存ツールでは実現できない「住民」と「行政職員」の共創を実現。

② 既存ツールのご紹介から弊社ソリューションのご提案まで 市民参加のデジタル化・DXのコンサルティング・研修

(コンサルティング・研修事業)

「市民参加のデジタル化・DXを実現したい」というご相談に応じて、既存*・弊社開発のツールを組み合わせたソリューションをご提案・企画・運営を一貫して実施。職員向けツール活用研修等も併せて開催。

*無償提供される各種ツールを活用した、新たな取り組みの支援なども実施。必要に応じて、オンラインファシリテーションなども実施。

③ 国内外の事例調査研究、セミナー・ワークショップ開催、講演 市民参加のデジタル化・DXに関連する調査研究・企画実施

(政策研究・企画事業)

ガバナンスや市民参加のデジタル化・DXの国内外の事例を調査研究**。
研究者の皆さんと連携し、情勢等を扱うセミナー、弊社ツールを用いたワークショップの開催。講演活動やPA等に取り組みます。

**シンクタンクや超党派議連からの調査研究受託や、各種雑誌等での資料掲載、経済団体等での講演実績など多数。

見据えている事業展開（イメージ）

主権者教育（Citizenship Education）のツールとして、
中等教育におけるルールメイキングの教材に

PR・マーケティングツールや研修用ツールとして
公共領域以外にも展開を模索

1-2 弊社の事業詳細 – 参加型共創プラットフォーム“Liqlid”の開発・運用

「じっくり話してしっかり決める」参画と共創を実現する独自ツールで『市民参加のDX』に貢献

① 参加型共創プラットフォーム “Liqlid”の開発 (詳細はP.X)



サービス名：Liqlid (リクリッド)



○概要

オンラインの参加型共創プラットフォーム『Liqlid』は、**Webアプリケーション**として提供、唯一の議論に直接参画できるDPPP。

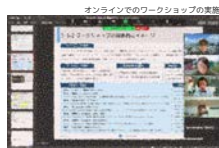
○サービスの展開

自治体・組織の皆様から綿密に要件等のヒアリングを行い、必要なカスタマイズのご提供します。

② 講習やプラットフォーム上でのファシリテーションの実施



オフラインでのサポートの実施



オンラインでのワークショップの実施

○概要

運営や、プラットフォーム上でのファシリテーションを実施します。P.Yの研修等と合わせて、活用方法の講習も行います。

参加型共創プラットフォームを導入するメリット

① 『いつでも、どこでも、誰でも』アイデア・意見の「窓口」に

“Liqlid”はオンライン上で、「いつでも、どこでも、誰でも」アイデア・意見を出す場となり、ニーズや世論のきめ細やかな把握に貢献します。今までよりもアイデアや意見の「窓口」を拡張できます。

② アイデア・意見をもとに、オープンに対話して、プロセスを保存

“Liqlid”は、今までのパブリックコメントよりもより双方向に、プロジェクト形成に向けた対話のワークをオンライン上でオープンに行うことを可能にします。その過程を保存することができます。

③ アイデアや意見から直接たたき台を作成、『共創』を実現

社会の変化が激しく、自治体間競争の激しさを増す中、住民の皆さんのみならず、関係人口や若い世代の皆さんと一緒に共創を実現することが、自治体経営の鍵となります。そのインフラが“Liqlid”です。

④ 「あたらしい民主主義の回路」を共に実験

国内で、デジタル技術を用いた住民参画の事例は多く存在しません。しかし、すでに国外では欧州・南米圏を中心に様々な事例が存在しています。我が国でも10年後には確実に必要になる仕組みです。

展開の現状と今後の可能性

- ・現在調整中
- その他、多数自治体と実証実験等の実施に向けてコミュニケーション中！

本プラットフォームは、SDGs（ターゲット16.6、16.7）をサポートします。
 ・ 16.6 有効で説明責任のある透明性の高い公共機関の発展
 ・ 16.7 対応的・包摂的・参加型、及び代表的な意思決定を確保



1-3

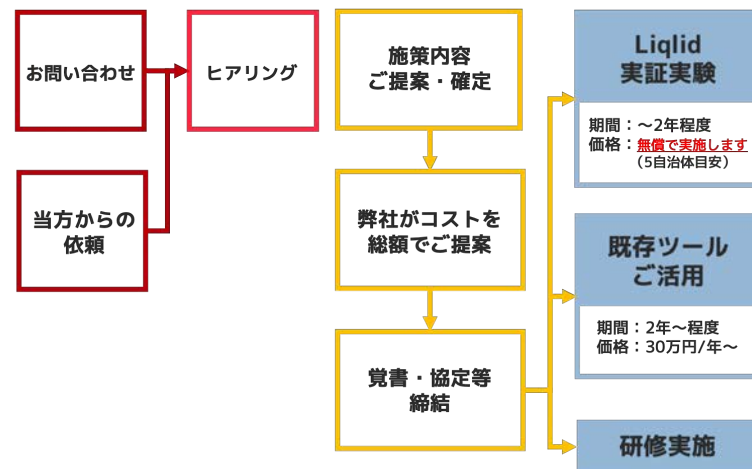
弊社の事業詳細 – 市民参加のデジタル化・DXのコンサルティング・研修

「何をすればいいかわからない！」既存ツールから弊社ツールまで最適解を一貫して提案・実行

① 市民参加のデジタル化・DXのコンサルティング

弊社は、弊社が開発した“Liquid”のご導入が全ての問題の解決策だとは考えていません。既存ツールを含めた活用は有益です。

「市民参加をデジタル化したい」「市民参加をDXしたい」といったご要望をいただいたのちに、綿密にヒアリングをさせていただきます。その上で、コストなどを検討した上で、既存のツールの組み合わせや弊社ツールのご導入を提案します。



② 市民参加のデジタル化・DXツールの研修

ご提案した既存ツール・弊社ツールは、使えなければ大変です。自治体職員の皆さんが自由にお使い頂けるように、弊社スタッフが研修等を実施します。

○ 研修のご依頼に対応可能なツール (例)

(Web会議) Zoom, Google Hangout, WebEx, Skype
(意見募集フォーム) Googleフォーム, SurveyMonkey, Typeform
(オンラインコミュニティ) Facebookグループ, Slack, Chatwork
(統計解析) KHCoder (テキストマイニング), R (データ解析)

★独自に下記のようなご提案をする場合もございます

- ・「都市圏に流出した若年層の皆様が参加するコミュニティをデジタルツールを使って構築した上で、弊社ツールを用いて、自治体に期待する施策などを共創する」
- ・「子育て層が参加するコミュニティをデジタルツールを使って構築し、弊社ツールを用いて、実際のニーズにあった施策を共創する」

お問い合わせ

メールアドレス : office@liquidous.com

電話 (代表) : 090-7282-5114

調査研究や企画を通して、共通の認識を形づくり、社会実装に向けた素地を一緒に

① 政策研究（事業）

弊社は、「テクノロジー」と「民主主義」をテーマに、国内外の先進・参考事例や関連する概念などの調査研究を行い、オンラインメディア [Lisearch Journal](#) 等で発信。

ほか、中央官庁や地方自治体との情報交換、各種媒体への資料提供、カンファレンス等への登壇・情報発信を行います。



② 政策企画（事業）

弊社の取り組みの価値の最大化には、プロダクトを社会実装するのみならず、法改正や社会通念の変革などが必須です。

政策企画部門は、ロビイングや、世の中の皆さんを広く巻き込む企画など弊社のビジョンやプロダクトの社会実装に向けたあらゆる施策を展開します。

○講演実績（代表個人含）

- ・ 富士通総研「トボス会議」
- ・ 富士ゼロックス「Future Center Challenge」
- ・ SHIBUYA QWS 「実装のために、必要な行動とは？」
- ・ 経済同友会「未来選択会議」
- ・ 国際協力NGOセンター HAPIC 2021「テクノロジーと社会の進化」
- ・ ACC「TOKYO CREATIVE CROSSING」
ほか多数

③ 実証実験の提案・事務局

実証実験（PoC）の実施にあたり、実証実験を受け入れてくださる自治体・組織等の皆様と実証実験の枠組み等を調整・策定します。また、実証実験の事務局を担います。

○調査研究の受託実績（代表個人含）

- ・ （一財）創発プラットフォーム「創発支援業務」受託
- ・ 超党派議員連盟からの「エストニアにおける電子政府」調査研究受託
- ・ 超党派議員連盟からの議員立法骨子・ポンチ絵の開発受託（+事務局業務）
- ・ 与野党国会議員事務所からの電子政府・行政DXの事例研究受託

ほか、自治体・中央官庁などから、プラットフォーム活用に関する情報共有等。

1-5 私たちのチーム



栗本 拓幸
代表取締役 / CEO

1999年生まれ。慶應義塾大学総合政策学部在学。社団法人、NPO法人、財団法人などを経て、Liquitousを設立。社内では、経営/ビジョン策定ほかに従事。富士通総研「トポス会議」、経済同友会「未来選択会議」、ACC「TOKYO CREATIVE CROSSING」等に登壇。新刊『パクスなき世界（日経出版）』に掲載。



田邊 諒太
CBO

1999年生まれ。北海道函館市出身、山形大学工学部に在学し、情報工学を専攻。2020年2月、Liquitousの設立に伴い参画。意匠部門において、参加型プロジェクト共創プラットフォームLiqlid™のUI/UX開発などを担当。



瀧川 天陽
CTO

1998年生まれ。大阪府出身、東京理科大学理工学部在学し、経営工学を専攻。2020年11月、Liquitousに参画。現在はCTOとして、参加型プロジェクト共創プラットフォームLiqlid™の開発を担当。



藤井 海
Researcher / Operator



琴浦 将貴
Researcher / Engineer



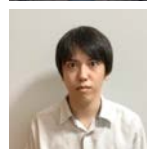
荒谷 健司
Engineer



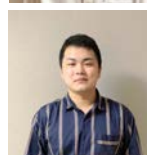
千島 洸太
Designer



栗栖 翔竜
Researcher / Communicator



後長 拓真
Engineer



南 政孝
Engineer

1-6

法人概要

名称	株式会社Liquitous
会社設立日	2020年2月25日
CxO一覧	栗本 拓幸 (代表取締役/CEO) 瀧川 天陽 (CTO) 田邊諒太 (CBO)
メンバー総数	10名 (開発部門・意匠部門・政策企画部門)
現在の拠点	100BANCH (渋谷区渋谷3丁目27-1)
連絡先等	HP : https://liquitous.com 連絡先: office@liquitous.com



参加する
自治体協議会

浜松市『デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム』 / 小田原市『デジタルイノベーション協議会』
豊中市『公民学連携プラットフォーム』 / 三島市『スマートシティ推進協議会』 / 高松市『スマートシティたかまつ推進協議会』

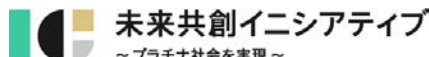
参加する
コンソーシアム等



QWSチャレンジ3期



100BANCH GARAGEプログラム



三菱総合研究所『未来共創イニシアティブ (ICF)』



NextCommonsLab『Sustainable Innovation Lab』

メディア掲載

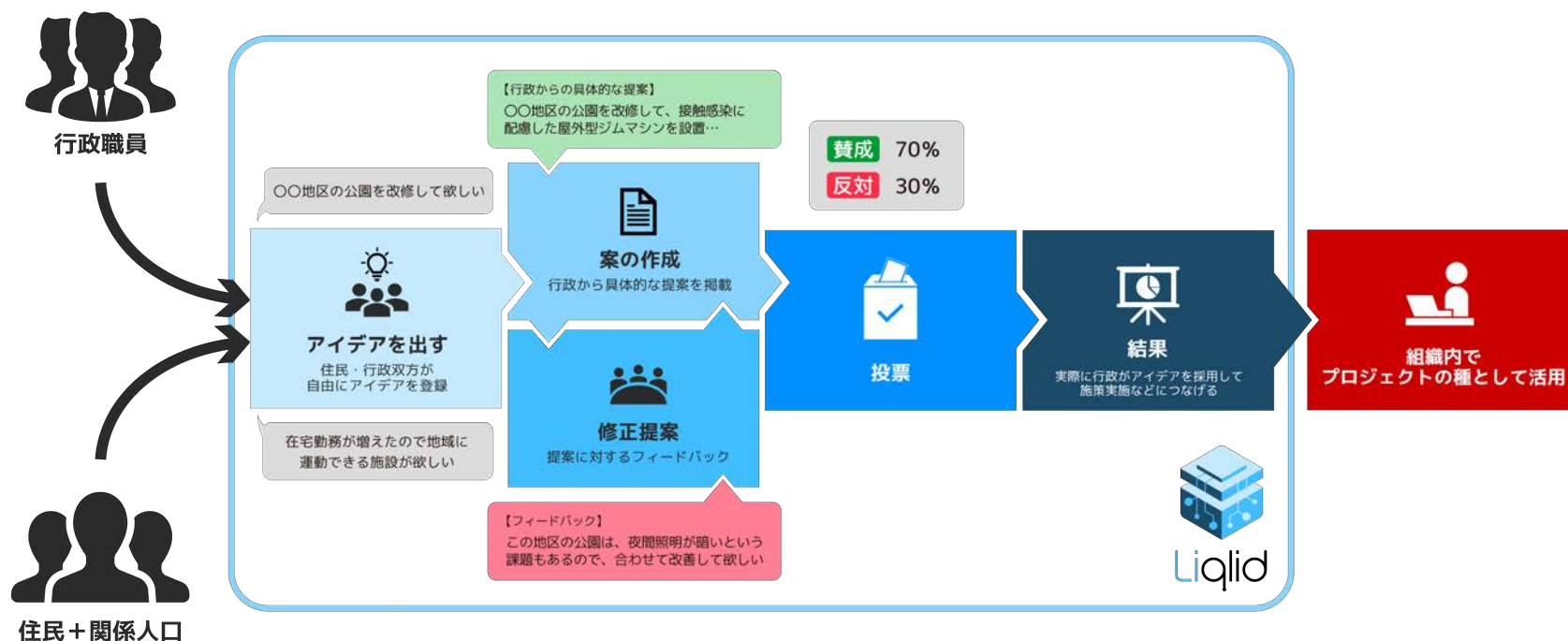
朝日新聞GLOBE+、日本経済新聞、東京新聞、WIRED ほか多数

- Liquidiousが開発するプラットフォーム



2-1 参加型プロジェクト共創プラットフォーム“Liqid”って？

住民・行政がアイデアをもとにプロジェクトを共創、施策の種を生み出す仕組み



2-2 弊社プラットフォーム“Liqolid” プロトタイプ

Liqolid は『じっくり話して、しっかり決める』がコンセプトの
対話・熟議に基づく、オンラインの参加型**プロジェクト共創プラットフォーム**

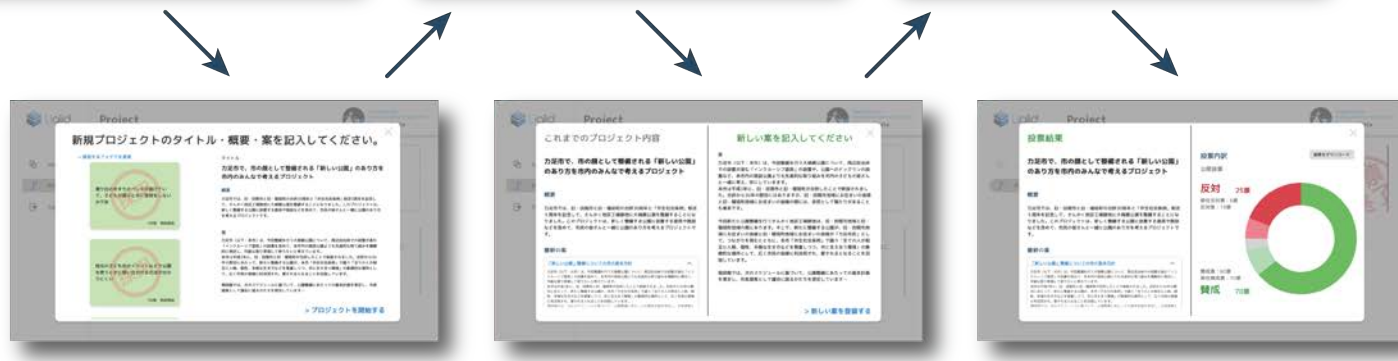
思ったことを気軽に
アイデアを出す



じっくり話す
議論する



しっかり決める
投票する



みんなのアイデアから
プロジェクトを作成

みんなの意見で
案を修正

みんなですぐに
結果を確認



現在はプロトタイプバージョンを提供
12月前半～中旬にVer.1を提供（予定）

2-3 弊社プラットフォーム“Liqlid” Ver.1.0 (コンセプト)



ダッシュボード機能

Ver.1.0
注目機能



じっくり話してしっかり決める

クアドラティック投票機能



※ソフトウェアの画面は開発中のものです。実際の画面とは異なる場合があります。

1 アイデアを出す

思いついた考えを自由に投稿



2 プロジェクトを作成

アイデアを選び議論のたたき台を



3 議論する

参加者の意見や「いいね」で議論進行



4 案を修正

案の修正を重ねて議論は深まる



5 投票する

高度な投票機能を実装



6 結果を確認

結果は即時開票、すぐに確認。



12月前半～中旬に本バージョンを提供予定

2-4 “Liqlid”開発にあたってのコンセプト

① ボトムアップの有機的なやりとりを可能にする

行政が住民に対して「諮る」形でも、住民が行政に対して陳情する形でもなく、行政と住民の双方がオンライン上でリアルタイムにボトムアップ型やりとりを積み重ねながら、対話を行うことが可能になります。

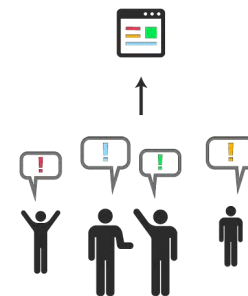
住民と行政の接点を増やすことで、フィードバック機能を強めます。



② アイデアから投票まで、一貫した設計にする

アイデアを出す、良いと思ったアイデアに「いいね」をする、プロジェクトを立ち上げる、プロジェクトの骨太に修正を提案する、投票するなど、ハードルの高さが違う、「参画のための仕掛け」を設けています。

投票について、直接投票のみならず、他者に自分の1票を委任する仕組みも取り入れます。各々のニーズに合わせた、参画の方法を提供します。



③ デジタルデバイスも意識してUI/UXを重要視

市民参加に関するデジタル・プラットフォームのニーズは、これからさらに増していくと考えています。年齢やインターネットスキルなどを問わず、様々な人々がインクルーシブ（包摂的に）に参画できるようにします。

```
def main():  
    print "Hello World"
```



- 現在の展開



3-1

様々な自治体などの皆さんと実証実験に向けて

現在コミュニケーション中の自治体

10 自治体

都道府県：2

市（政令指定都市・中核市等）：2

市（人口10万～20万人）：3

特別区：1

町村：2

現在連携を模索している組織等

3 団体

研究機関・シンクタンク等

3-2 ワークショップ型実証実験のご提案

ワークショップの概要

ワークショップは全X回で開催（要調整）。必要に応じて、貴自治体のまちづくり等へのインプットを行うゲスト講師を弊社が招聘し、必要な情報についてインプット。ワークショップ内で活用する目的で、プラットフォームを開設して、貴自治体のまちづくり等に関するアイデア出し・提言の組成を体験・実施（プラットフォームは参加者向けに常時オープン）。

ワークショップの目的

地域の若い世代を対象にして、現状への理解を図る。
同時に、町の未来を担う世代による自由な発想に基づき、まちづくりに関する提案を策定する。

参加対象者/参加費用

小学校6年生程度～30代を念頭/無料
*告知等について、自治体に重点的に協力を依頼

開催方法

オンライン/オフラインの
ハイブリッド開催
*会場の提供も依頼

各回のテーマ設定

- ・第1回：「プロローグ：●●●市/町の今とこれから」
- ・第2回：「●●●市/町ってこれからどうなるの？」
→ゲストに首長や自治体職員の皆様。基本構想等の解説。インプットへのアイデア出し等を弊社プラットフォームで実施。
- ・第3回：「町が動く仕組み（デジタル）」
→ゲストに地方自治の専門家。自治体が動く仕組み（予算、条例等）を解説。アイデア出し等を弊社プラットフォームで実施
- ・第4回：「若い世代は町にどう関わるの？」
→ゲストに若者の社会参加の専門家。若者の社会参加を解説（デジタルシティズンシップ）。アイデア出し等を弊社プラットフォームで実施。
- ・第5回：「●●●市/町で生活を送る：子育て・教育編」
→ゲストに（可能であれば）自治体職員。●●●市/町の施策について、アイデア出し等を弊社プラットフォームで実施。
- ・第6回：「●●●市/町で生活を送る：日々の生活編」
→ゲストに（可能であれば）自治体職員。●●●市/町の施策について、アイデア出し等を弊社プラットフォームで実施。
- ・第7回：「Liqidを使って提言をまとめよう！」
→各回で行ったアイデア出しや細分化された提言をまとめ、弊社プラットフォーム上で最終的にFBを行い策定。貴自治体に提出。

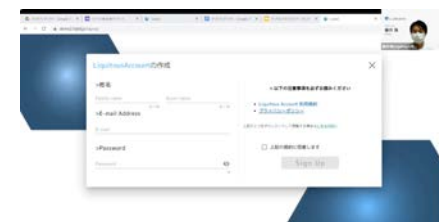
時間設定

00:00～00:10
→チェックイン
00:10～00:20
→ワークショップの説明
00:20～01:00
→ゲストのレクチャー
01:00～01:20
→議論しながらプラットフォーム記入
01:20～01:30
→次回までのプラットフォーム運用説明

3-3 庁内で情報共有会/ワークショップを実施

皆様を対象に「情報共有会」を実施します

- デジタル・プラットフォームを活用した市民参加は、国内では事例が依然として僅少です。弊社は、デジタル・プラットフォームの狙いや利活用方法を紹介しつつ、プラットフォームのご導入の希望を問わず、意見交換や、課題感を伺いながら、弊社がお手伝いできることを探る「情報共有会」をご希望に応じて開催いたします（無料・オンライン/オフライン対応）。
- 弊社はこれまでもオンライン上で、情報共有会を多く開催しております。自治体、民間シンクタンク、大学等の研究機関等、多様なご所属の皆様に多数ご参加いただいております。



プロトタイプ版をご試用いただけます

- 弊社プラットフォームのプロトタイプ版（簡易的に機能を搭載したバージョン）を簡単にお試しいただけます。直感적으로ご理解いただける説明資料、実際にアクセスいただけるURL（リンク）を記載したPDFをお配りしています。ご希望の方はお問い合わせください。

庁内向けワークショップを実施します

- そのほか、弊社プラットフォームを活用した庁内の職員向けワークショップなども実施させていただきます。

お問い合わせ

メールアドレス：office@liquidous.com

電話（代表）：090-7282-5114



じっくり話してしっかり決める

Liquid

 Liquitous Inc.

自治体

- これからの「住民参画」の仕組み
- 「スーパーシティ」の新しい住民参画
- 「関係人口」を地域行政に巻き込む

企業

- 共創を実践する
- 「組織内コミュニケーション」を進化させる
- 顧客とプロダクトを共創する「D2C」ビジネス

ソーシャル

- マンションの「ご近所付き合い」をアップデート
- 「NPO・組合」の運営をオープン・円満に
- 自律分散型組織の実現（ホラクラシー・DAO）

- 将来的な展開

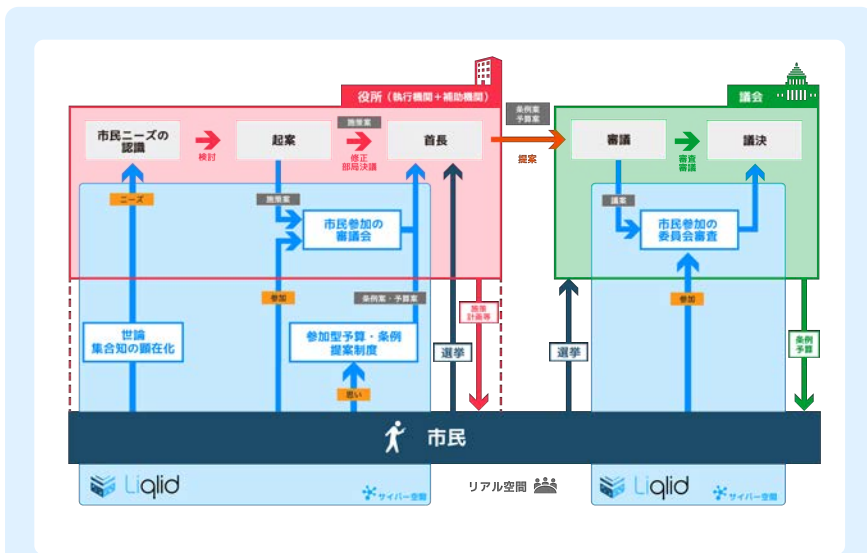


4-1

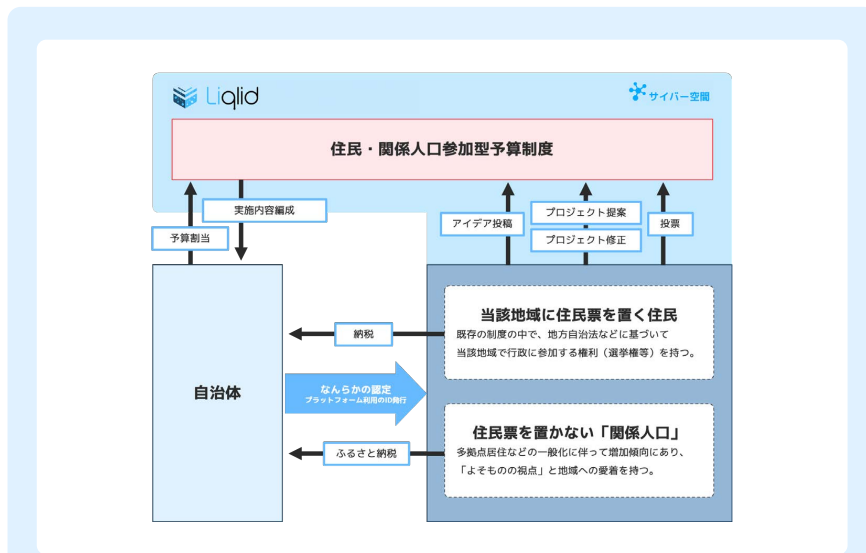
「住民自治」のDXに取り組む

単なる「意見収集」ではない、住民と行政職員がプロジェクトを共創する仕組みを発展

- 中長期的には、市民ニーズの顕在化、オンラインで市民参加の審議会等の実施、参加型予算制度などと併せた「市民参加」の仕組みなどとして、ご活用いただけるものと想定。
- 10年後にはデジタルデバイド問題は相応に解決、10年後を今から見据え、新しい「市民参画」の仕組みの検討が必須。



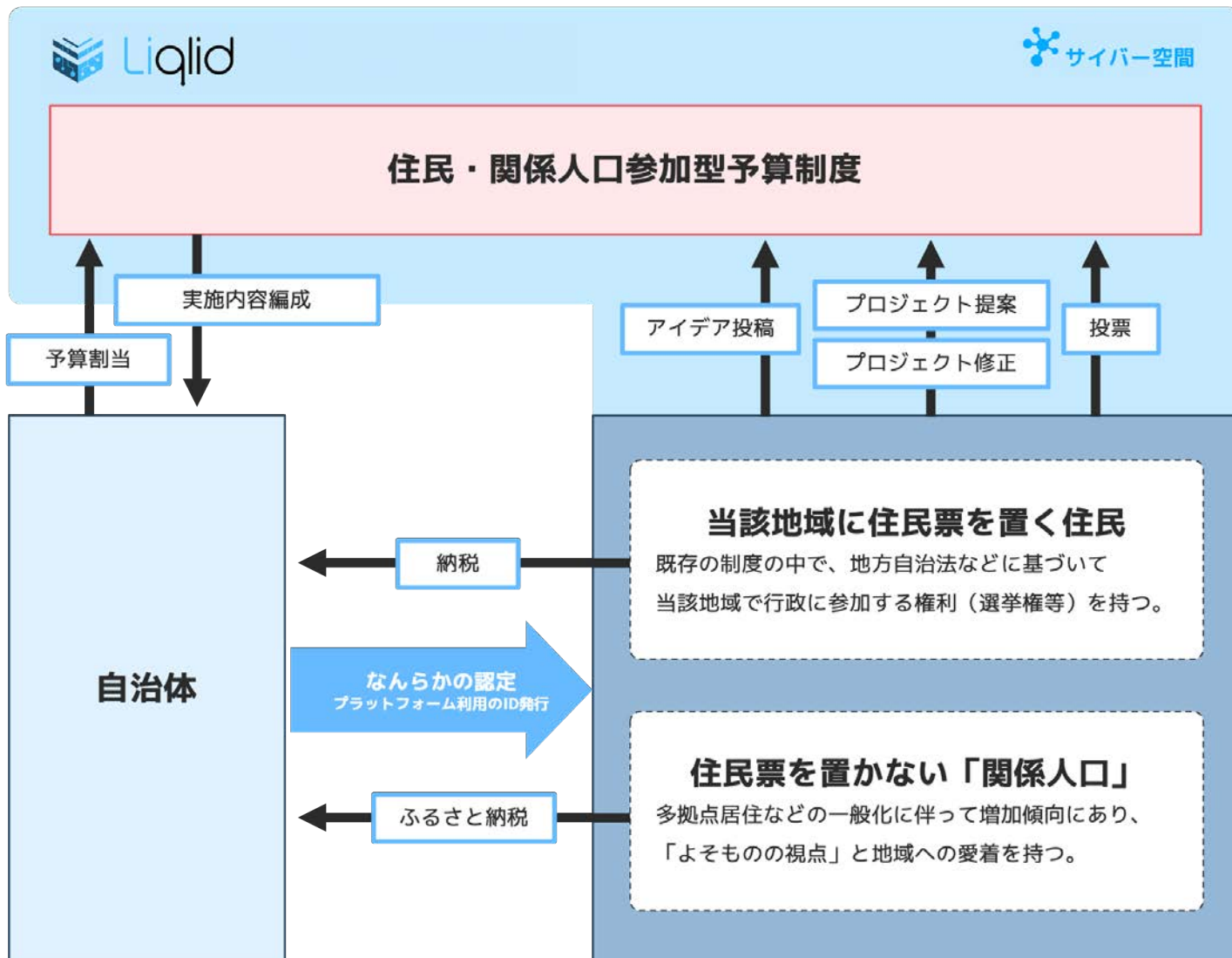
住民・関係人口と行政・議会を
(選挙以外の方法で) 繋ぐ



住民・関係人口が参加する新しい住民自治
「参加型予算制度 (Participatory Budgeting System) 」

4-2

タッチアンドトライ & 様々な自治体などの皆さんと実証実験に向けて



- お知らせ



5-1 Twitter



#フォローお願いします

<https://twitter.com/Liquitous>

5-2 Facebookページ



#いいねお願いします

<https://facebook.com/Liquitous/>



Liquitous Inc.

お問い合わせ

メールアドレス：office@liquitous.com

電話（代表）：090-7282-5114

- ・本資料及び記載の情報は、株式会社Liquitousの責任で編集したものです。
- ・本資料の著作権は、全て株式会社Liquitousに帰属します。